

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

株式会社 SCREEN ホールディングス（証券コード: 7735）

【据置】

長期発行体格付
格付の見通し

A
安定的

■格付事由

- 半導体洗浄装置の世界トップメーカー。ウェハを1枚ずつ洗浄する枚葉式洗浄装置、複数枚を一度に洗浄するバッチ式洗浄装置などで高い市場シェアを握る。半導体製造装置ではこの他にコータ・デベロッパなども手掛ける。FPD製造装置、印刷関連機器、プリント基板関連機器といった事業も展開するが、半導体製造装置への収益依存度が高い。
- 半導体市場や半導体製造装置市場が軟調に推移する中でも、当社の業績は堅調である。これは、①設備投資の抑制がきつい半導体メモリ向けポジションの相対的な小ささ②半導体国産化を進める中国における旺盛な設備投資需要③生産キャパシティの不足に起因する受注の持ち越しなどが背景にある。また、収益力・キャッシュフロー創出力の向上により、財務基盤の強化が進む方向にある。以上を踏まえ、格付を据え置き、見通しを安定的とした。JCRは、当社のマーケットシェアの動向、財務基盤の強化度合いに注目していく。
- 24/3期営業利益は885億円（前期比15.8%増）と3期連続で過去最高を更新する計画である。米国による対中輸出規制強化などの影響は限定的なものにとどまっている。これは、中国が規制対象の先端ノードからレガシーノードへ設備投資の軸足をより移したことによる。足元の受注は高い水準を維持しており、想定される受注残高の積みあがりも勘案すると、25/3期業績も底堅く推移するとみられるが、半導体市場や半導体製造装置市場が早期に本格回復するか注目していく。
- 24/3期第3四半期末の自己資本は3,257億円（前年同期末2,836億円）に拡充された。同期末の自己資本比率は総資産が膨らんだことで47.1%（同52.3%）に低下したが、自己資本比率改善の方向性は損なわれていないとみている。同期末の手元流動性は2,551億円（同1,625億円）と有利子負債283億円を大きく上回る。設備投資の水準が近時高まっているが、営業キャッシュフローで吸収できる見通しである。

（担当）千種 裕之・関口 博昭

■格付対象

発行体：株式会社 SCREEN ホールディングス

【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	A	安定的

格付提供方針等に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2024年3月15日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：殿村 成信
主任格付アナリスト：千種 裕之
3. 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」(2014年1月6日)として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」(2024年2月1日)、「電機」(2024年2月8日)、「国内事業法人・純粋持株会社に対する格付けの視点」(2003年7月1日)、「持株会社の格付方法」(2015年1月26日)として掲載している。
5. 格付関係者：
(発行体・債務者等) 株式会社 SCREEN ホールディングス
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
 - ・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
 - ・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. 格付関係者による関与：
本件信用格付の付与にかかる手続には格付関係者が関与した。
10. JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL: 03-3544-7013 FAX: 03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル